



## Cisco APIC-EM の管理

- [コントローラへのスタティック ルートの追加, 1 ページ](#)
- [コントローラの IP アドレスの変更, 2 ページ](#)
- [マルチホスト クラスタでのコントローラ設定の変更, 3 ページ](#)
- [コントローラの工場出荷時のデフォルトへの復元, 5 ページ](#)
- [コントローラのシャットダウンおよび再起動, 8 ページ](#)

## コントローラへのスタティック ルートの追加

設定ウィザードをもう一度実行し、コントローラが使用するスタティック ルートなどの以前の設定エントリを更新することで、Cisco APIC-EMのインストールをトラブルシューティングできます。設定ウィザードでは、保存されている以前の設定値が表示されるため、再入力する必要はありません。



(注) この手順を実行すると、コントローラのダウンタイムが発生します。したがって、メンテナンス時間中にこの手順を行うことを推奨します。マルチホスト構成の設定の変更については、[マルチホスト クラスタの設定の変更](#)を参照してください。

### はじめる前に

*Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module Installation Guide*で説明されている手順に従って Cisco APIC-EM をインストール済みです。

- ステップ 1** セキュア シェル (SSH) クライアントを使用し、設定ウィザードを使用して指定した IP アドレスでホスト (物理または仮想) にログインします。
- (注) SSH クライアントで入力する IP アドレスは、ネットワーク アダプタ用に設定した IP アドレスです。この IP アドレスは、ホストを外部ネットワークに接続します。

**ステップ 2** プロンプトが表示されたら、SSH アクセス用の Linux ユーザ名（「grapevine」）とパスワードを入力します。

**ステップ 3** 次のコマンドを使用して設定ウィザードを再起動します。

```
$ config_wizard
```

(注) config\_wizard コマンドは、「root」ユーザではなく「grapevine」ユーザの PATH 内にあります。「grapevine」ユーザとしてコマンドを実行するか、「root」ユーザとしてコマンドを完全修飾します。例：/home/grapevine/bin/config\_wizard

**ステップ 4** 設定ウィザードの現在の設定値を確認して [next>>] をクリックし、以前の設定エントリを更新する特定のステップまで進みます。

たとえば、新しいスタティック ルートアドレスを入力する必要がある場合は、[NETWORK ADAPTER #1 (eth0)]画面が表示されるまで [next>>] をクリックします。

**ステップ 5** 設定ウィザードで以前に入力して現在表示されている値を更新します。

スタティック ルートの場合は、スペースで区切ったスタティック ルートのリストを次の形式で入力する必要があります。

Network IP address/Netmask IP address/[Gateway IP address]

**ステップ 6** 設定ウィザードプロセスの最後のステップまで [next>>] をクリックします。

**ステップ 7** [proceed>>] をクリックして、設定ウィザードで Cisco APIC-EM のインストールに対する設定変更を保存および適用します。

## コントローラの IP アドレスの変更

設定ウィザードをもう一度実行し、コントローラの IP アドレス（ホストまたは仮想）などの以前の設定エントリを更新することで、Cisco APIC-EM のインストールをトラブルシューティングできます。設定ウィザードでは、保存されている以前の設定値が表示されるため、再入力する必要はありません。



(注) この手順を実行すると、コントローラのダウンタイムが発生します。したがって、メンテナンス時間中にこの手順を行うことを推奨します。マルチホスト構成の設定の変更については、[マルチホスト クラスタの設定の変更](#)を参照してください。

## はじめる前に

*Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module Installation Guide*で説明されている手順に従って Cisco APIC-EM をインストール済みです。

- 
- ステップ 1** セキュア シェル (SSH) クライアントを使用し、設定ウィザードを使用して指定した IP アドレスでホスト (物理または仮想) にログインします。
- (注) SSH クライアントで入力する IP アドレスは、ネットワーク アダプタ用に設定した IP アドレスです。この IP アドレスは、ホストを外部ネットワークに接続します。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、SSH アクセス用の Linux ユーザ名 (「grapevine」) とパスワードを入力します。
- ステップ 3** 次のコマンドを使用して設定ウィザードを再起動します。
- ```
$ config_wizard
```
- (注) config\_wizard コマンドは、「root」ユーザではなく「grapevine」ユーザの PATH 内にあります。「grapevine」ユーザとしてコマンドを実行するか、「root」ユーザとしてコマンドを完全修飾します。例: /home/grapevine/bin/config\_wizard
- ステップ 4** 設定ウィザードの現在の設定値を確認して [next>>] をクリックし、以前の設定エントリを更新する特定のステップまで進みます。
- たとえば、新しいホスト IP アドレスを入力する必要がある場合は、[NETWORK ADAPTER #1 (eth0)] 画面が表示されるまで [next>>] をクリックします。
- ステップ 5** 設定ウィザードで以前に入力して現在表示されている値を更新します。
- たとえば、新しい IP アドレスを入力してホスト IP 設定を更新できます。
- ステップ 6** 設定ウィザードプロセスの最後のステップまで [next>>] をクリックします。
- ステップ 7** [proceed>>] をクリックして、設定ウィザードで Cisco APIC-EM のインストールに対する設定変更を保存および適用します。
- 

## マルチホスト クラスタでのコントローラ設定の変更

マルチホスト クラスタに関する問題をトラブルシューティングするには、設定値の変更が必要になる場合があります。この手順では、マルチホスト クラスタで Cisco APIC-EM 外部ネットワーク設定、NTP サーバアドレス、および Linux grapevine ユーザのパスワードを変更する方法について説明します。変更できる外部ネットワーク設定は次のとおりです。

- ホスト IP アドレス
- 仮想 IP アドレス
- DNS サーバ

- デフォルト ゲートウェイ
- スタティック ルート



(注) マルチホスト導入で、外部ネットワーク設定、NTP サーバアドレス、および Linux grapevine ユーザパスワードを変更するには、最初にマルチホストクラスタを分割する必要があります。その結果、コントローラのダウンタイムが発生します。したがって、メンテナンス時間中にこの手順を行うことを推奨します。

### はじめる前に

*Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module Installation Guide*の説明に従い、設定ウィザードを使用してマルチホストクラスタとして Cisco APIC-EM を正常に設定する必要があります。

**ステップ 1** セキュア シェル (SSH) クライアントを使用して、クラスタ内の 1 つのホストにログインします。設定ウィザードを使用して指定した IP アドレスを使用してログインします。

(注) SSH クライアントで入力する IP アドレスは、ネットワーク アダプタ用に設定した IP アドレスです。この IP アドレスは、アプライアンスを外部ネットワークに接続します。

**ステップ 2** プロンプトが表示されたら、SSH アクセス用の Linux ユーザ名 (「grapevine」) とパスワードを入力します。

**ステップ 3** 次のコマンドを入力して設定ウィザードにアクセスします。

```
$ config_wizard
```

(注) config\_wizard コマンドは、「root」ユーザではなく「grapevine」ユーザの PATH 内にあります。「grapevine」ユーザとしてコマンドを実行するか、「root」ユーザとしてコマンドを完全修飾します。例: /home/grapevine/bin/config\_wizard

**ステップ 4** [Welcome to the APIC-EM Configuration Wizard!]画面を確認し、クラスタからホストを削除するオプションを選択します。

- [Remove this host from its APIC-EM cluster]

**ステップ 5** メッセージが次のオプションと共に表示されます。

- [cancel]: 設定ウィザードを終了します。
- [proceed]: クラスタからこのホストを削除するプロセスを開始します。

開始するには、[proceed>>]を選択します。[proceed>>]を選択すると、設定ウィザードはクラスタからのこのホストの削除を開始します。

このプロセスの最後に、このホストはクラスタから削除されます。

**ステップ 6** クラスタの 2 番目のホストで上記の手順 (ステップ 1 ~ 5) を繰り返します。

(注) 残ったホストが1つだけになるまで、クラスタ内の各ホストに対して上記の手順を繰り返します。この最後に残ったホストで設定変更を行います。

**ステップ7** セキュア シェル (SSH) クライアントを使用して、クラスタ内の最後のホストにログインし、設定ウィザードを実行します。

```
$ config_wizard
```

ホストにログインした後、設定プロセスを開始します。

**ステップ8** ウィザードを使用して、外部ネットワーク設定、NTP サーバアドレス、Linux grapevine ユーザのパスワードの設定値に必要な変更を加えます。  
設定を変更した後は、最終メッセージが表示されるまで設定プロセスを進めます。

**ステップ9** 設定プロセスの最後に、ウィザードが設定の適用を実行できる状態になったことを示す最終メッセージが表示されます。  
次のオプションを使用できます。

- [back] : 設定値を確認します。
- [cancel] : 設定値を破棄して設定ウィザードを終了します。
- [save & exit] : 設定値を保存して設定ウィザードを終了します。
- [proceed] : 設定値を保存して、それらの適用を開始します。

[proceed>>]を選択してインストールを完了します。[proceed>>]を選択すると、上記で入力した設定値が設定ウィザードによって適用されます。

(注)

設定プロセスの最後に、「CONFIGURATIONSSUCCEEDED」というメッセージが表示されます。

**ステップ10** マルチホスト クラスタ内の他のホストにログインし、設定ウィザードを使用してクラスタを再作成します。  
この具体的な手順の詳細については、*Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module Installation Guide*を参照してください。

## コントローラの工場出荷時のデフォルトへの復元

特定の状況では、Cisco APIC-EMを元の工場出荷時設定に復元する必要があります。たとえば、コントローラ アプライアンスを交換した場合や、不要な設定を完全に削除する必要がある場合などです。このような状況では、コントローラを工場出荷時のデフォルトに復元してから、新しいコントローラとして再設定できます。

この手順では、コントローラを工場出荷時のデフォルトに復元する方法について説明します。

**注意**

この手順では、Cisco APIC-EMとそのホスト（物理または仮想）の両方をシャットダウンします。この手順の最後には、ホストにアクセスして再起動する必要があります。

**はじめる前に**

*Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module Installation Guide*で説明されている手順に従ってすでに Cisco APIC-EM をインストール済みです。

物理コンソールまたは Telnet 接続を使用して Cisco APIC-EMにアクセスできます。

- 
- ステップ 1** セキュア シェル (SSH) クライアントを使用し、設定ウィザードを使用して指定した IP アドレスでホスト（物理または仮想）にログインします。
- (注) SSH クライアントで入力する IP アドレスは、ネットワーク アダプタ用に設定した IP アドレスです。この IP アドレスは、ホストを外部ネットワークに接続します。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、SSH アクセス用の Linux ユーザ名（「grapevine」）とパスワードを入力します。
- ステップ 3** プロンプトで `reset_grapevine factory` コマンドを入力します。

```
§ reset_grapevine factory
```

**重要** 何らかの理由で SSH 接続が切断されると、`reset_grapevine factory` コマンドは終了します。これを防ぐため、コントローラにすでにインストール済みの `tmux`（端末マルチプレクサ）を使用して、セッションで `reset_grapevine factory` コマンドを実行することを推奨します。次の `tmux` のコマンドを使用できます。

|                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>tmux new -s session_name 'reset_grapevine factory'</code>    | <p><code>tmux</code> を使用する新しいセッションを <code>reset-grapevine factory</code> 用に作成するためのコマンドです。このコマンドの <code>'reset-grapevine factory'</code> は 1 つの文字列値です。したがって、単一引用符内に入力する必要があることに注意してください。</p> <p>たとえば、次のコマンドを入力します。</p> <p><b><code>tmux new -s session100 'reset_grapevine factory'</code></b></p>                            |
| <code>tmux ls</code>                                               | <p><code>tmux</code> セッションのリストを表示するためのコマンドです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <code>tmux attach -t session_name 'reset_grapevine factory'</code> | <p><code>tmux</code> セッションに接続するためのコマンドです。このコマンドの <code>'reset-grapevine factory'</code> は 1 つの文字列値です。したがって、単一引用符で囲む必要があることに注意してください。</p> <p>たとえば、次のコマンドを入力します。</p> <p><b><code>tmux attach -t session200 'reset_grapevine factory'</code></b></p> <p><code>tmux</code> に関する詳細情報を取得するには、<code>man tmux</code> コマンドを実行します。</p> |

**ステップ 4** Linux の `grapevine` パスワードをもう一度入力して、リセットプロセスを開始します。

```
$ sudo password for grapevine *****
```

このコマンドを入力すると、`reset_grapevine factory` コマンドによってコントローラがシャットダウンするという警告が表示されます。

`reset_grapevine factory` コマンドの実行を確認するように求められます。

**ステップ 5** Yes を入力して、`reset_grapevine factory` コマンドの実行を確認します。コントローラでは、次のタスクが実行されます。

- 実行中のすべてのクライアントおよびサービスを停止します。
- すべてのクラスタ データを削除します。
- すべてのユーザ データを削除します。
- 秘密と秘密キーを含むコンフィギュレーション ファイルを削除します。

- コントローラをシャットダウンします。
- ホスト（物理または仮想）をシャットダウンします。

### 次の作業

次の作業を行います。

- ホスト（物理または仮想）を起動します。
- 起動後、設定ウィザードが表示され、Cisco APIC-EMを再導入することを求められます。
- 設定ウィザードを使用した Cisco APIC-EMの再導入に進みます。

## コントローラのシャットダウンおよび再起動

トラブルシューティングなどの特定の状況では、単一のホストまたはマルチホスト クラスタをグレースフル シャットダウンしてから再起動する必要が生じる可能性があります。

マルチホスト クラスタ内の単一ホストをシャットダウンして再起動する方法については、『*Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module Troubleshooting Guide*』を参照してください。

### はじめる前に

*Cisco Application Policy Infrastructure Controller Enterprise Module Installation Guide*の手順に従って Cisco APIC-EM をインストール済みです。

- ステップ 1** セキュア シェル (SSH) クライアントを使用し、設定ウィザードを使用して指定した IP アドレスでホスト（アプライアンス、サーバ、または仮想マシン）にログインします。
- （注） SSH クライアントで入力する IP アドレスは、ネットワーク アダプタ用に設定した IP アドレスです。この IP アドレスは、ホストを外部ネットワークに接続します。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、SSH アクセス用の Linux ユーザ名（「grapevine」）とパスワードを入力します。
- ステップ 3** `harvest_all_clients` コマンドを入力して、単一のホスト上またはマルチホスト クラスタ内の複数のホスト上のすべてのサービスを収集（グレースフル シャットダウン）します。

```
$ sudo /home/grapevine/bin/harvest_all_clients
```

**重要** マルチホスト クラスタの場合、いずれかのホストでこのコマンドを入力すれば、クラスタ内のすべてのホスト上のサービスをすべて収集（グレースフル シャットダウン）できます。

**ステップ 4** コマンド出力と、後に続く指示を確認します。

```
$ sudo /home/grapevine/bin/harvest_all_clients

Disabled Grapevine policy
Harvesting client 1f481f49-fabc-44f9-af5a-0481bd823165...
Harvesting client 6dac3f56-fb05-4fd0-be06-d5c6869e23cd...
Harvesting client c800924c-7603-4092-b1f8-0c19f5141acc...
Waiting on task 05b9192c-9484-11e6-bdc2-0050569f3bee...
Task '05b9192c-9484-11e6-bdc2-0050569f3bee' completed successfully
Waiting on task 05da80da-9484-11e6-bdc2-0050569f3bee...
Task '05da80da-9484-11e6-bdc2-0050569f3bee' completed successfully

Successfully harvested all clients

PLEASE NOTE:
Grapevine policy has been DISABLED so that services and clients can be harvested.
To start all services again, run the following command:

    grape config update enable_policy true
```

**ステップ 5** 次のコマンドを入力して、ホストの電源を切断します。

```
$ sudo shutdown -h now
```

プロンプトが表示されたら、パスワードをもう一度入力します。

マルチホスト クラスタの場合、マルチホスト クラスタ内の各ホストでこのコマンドを入力し、すべてのホストをシャットダウンする必要があります。

**重要** マルチホスト クラスタでシャットダウンした最後のホストが、その後に再起動される最初のホストになる必要があります。マルチホスト クラスタ内のホストをシャットダウンする順序を必ず追跡してください。

**ステップ 6** ホストがシャットダウンされる時のコマンド出力を確認します。

(注) `sudo shutdown` コマンドは、ホストの電源も切断します。

**ステップ 7** 単一または複数 (マルチホスト クラスタ内) のホストの電源を再投入することで、Grapevine ルート プロセスを起動します。

**重要** マルチホスト クラスタの場合は、マルチホスト クラスタで最後にシャットダウンしたホストを再起動してください。このホストが最初に再起動される必要があります。

**ステップ 8** セキュア シェル (SSH) クライアントを使用し、設定ウィザードを使用して指定した IP アドレスでホストに再度ログインします。

(注) SSH クライアントで入力する IP アドレスは、ネットワーク アダプタ用に設定した IP アドレスです。この IP アドレスは、ホストを外部ネットワークに接続します。

**ステップ 9** プロンプトが表示されたら、SSH アクセス用の Linux ユーザ名（「grapevine」）とパスワードを入力します。

**ステップ 10** Grapevine ルートで次のコマンドを入力して、Grapevine を有効にします。

```
§ grape config update enable_policy true
```

Cisco APIC-EM サービスが再起動するまで数分待ちます。

**重要** マルチホスト クラスタの場合、すべてのホストの電源投入が正常に完了してから、いずれかのホストでこのコマンドを入力する必要があります。

---